



明けましておめでとうございます!



明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。本年もさらなるサービス向上に向け、気持ちを新たに取り組んでまいります。

昨年の大きな出来事は何といっても、三重オフィスの開設です。

3拠点のスタッフ一同、皆様のお役に立てるようさらなる努力をして参ります。

2026年は「丙午（ひのえうま）」です。

「丙」は「太陽のように大きく広がる火」という強いエネルギーを象徴します。

午には馬から連想される「スピード」「行動力」「勢いや力強さ」などの意味があるそうです。

2026年が皆様にとって飛躍の年になることをお祈りいたします。



自動車運送事業関連手続きの オンライン申請開始



政府全体の取り組みである「デジタル社会の実現に向けた重点計画」等に基づき、自動車運送事業分野の諸手続きについて、令和7年12月1日より、本格的なオンライン申請の運用が始まりました。令和8年4月頃開始予定の手続きを含め、合計137の手続きについて、申請がオンライン化されます。

オンライン申請のメリット

- ① いつでも、どこからでも申請可能
- ② 申請書の印刷、紙媒体での提出が不要
- ③ 申請後の処理状況の確認や公文書の取得がパソコンで可能

オンライン化される主な手続き

■令和7年9月先行運用(16手続き)

■令和7年12月利用開始(49手続き)

- ・一般貨物・特定貨物、一般旅客自動車運送事業(貸切・乗用)の許可申請
- ・一般貨物・特定貨物、一般旅客自動車運送事業の事業計画の変更認可申請・届出
- ・一般貨物・特定貨物事業の事業報告・輸送実績報告の届出
- ・事業の事故報告の届出
- ・適性診断実施機関の認定・変更届出
- ・運行管理者講習実施機関の年間報告及び会計報告の届出等

■令和8年4月利用開始(72手続き)

- ・貨物自動車運送適正化事業実施機関の名称等の変更届出
- ・土砂等運搬大型自動車の表示番号の指定の許可申請・届出(ダンプ法関連)
- ・自家用自動車の有償運送の許可申請
- ・自家用有償旅客運送の有効期間の更新登録、登録事項の変更、輸送実績報告の届出
- ・一般旅客自動車運送事業の事業報告・輸送実績報告の届出
- ・運行管理者資格者証の交付等の届出
- ・運行管理者試験の指定機関・指定申請等

➔ 137 手続きがオンライン化

特車申請業務以外も お気軽にご相談ください



当事務所ではこれを機に業務の幅を広げていきたいと考えています。オンライン申請になったことで業務を受注しやすくなりました。より皆様のお役に立てるよう自動車運送事業関連手続きやGマーク取得、監査対応を含む顧問サービスのリリースを行いたいと考えています。今まで貴社の「特車申請部門」としてご活用いただいていたのですが、今後は「法務部門」としてご活用いただけるよう、サービス企画を進めています。

自動車運送事業関連手続きに関して、経験を積みたいと考えておりますので、事業計画の変更等ご用命がございましたらお気軽にご相談ください。格安で対応させていただきたいと考えております!(2026年4月まで)是非、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

価格転嫁に応じない企業 トラック運送元請が最下位



中小企業庁が11月28日に発表した「中小事業者と親事業者との価格交渉に関する調査」によると、価格転嫁に応じない企業の割合で、元請トラック運送事業者が業種別の最下位であることが判明しました。

2026年1月1日より下請法が改正され、取適法（中小受託取引適正化法）として施行されることになりました。その中で、発注企業の禁止行為の1つとして新たに規定されたのが、「価格転嫁のための協議に応じない一方的な代金決定」です。

トラック運送元請事業者が価格転嫁に応じるか否かは別として、価格転嫁のための協議には誠意をもって応じる必要に迫られています。ただ、トラック運送元請事業者が発注先からの価格転嫁の要求に応じるためには、荷主との協議が必要にりま

価格転嫁の実施状況の業種別ランキング ワースト5

順位	発注企業	受注企業
1位	トラック運送	製薬
2位	放送コンテンツ	飲食サービス
3位	廃棄物処理	放送コンテンツ
4位	農業・林業	トラック運送
5位	広告	生活関連サービス

出典：中小企業庁「価格交渉促進月間（2025年9月）フォローアップ調査結果」

す。トラック運送元請事業者は、荷主との積極的なコミュニケーションを始めなくてはなりません。

価格転嫁の波は最終的に私たち消

費者の負担となってしまいますが、今こそ消費者、荷主のマインドチェンジが必要な時かもしれません。



佐久間の部屋

ああいえば…

90年代半ばに一世を風靡したとある方のトークショーに参加するため、神戸の某会場に赴きました。右の写真はテレビを通してしか見たことがないとある方のトークショーの写真です（写真は許可されていました）。皆様はの方をご存じでしょうか。

そう！元オウム真理教幹部の上祐史浩氏です。オウム事件後にオウム真理教がアレフ（現 Aleph）になった後に一時期代表を務めましたが、2007年3月にオウム時代の反省を表明して脱会。2007年5月にひかりの輪を設立し、以来代表を務めていらっやいます。

トークショーは何かテーマをもって語られるものではなく、参加者からの質問を受け付け、それに対して上祐氏が回答していくというスタイルでした。私も質問してみました。

佐久間「上祐さんといえば、会見中にフリップを投げてしまうシーンがとて印象的です。あのフリップを投げるという行動は事前に計画されていたのでしょうか。それとも会見中に熱くなってしまって、とっさにやってしまったことなのでしょうか」

上祐氏「あれは完全に計画的に行いました。麻原からは事実と180度逆のことをやれと言われ、計画的に行いました」

あのフリップを投げる行動を計画

的にやってのける上祐氏は教団のスポークスマンであるのと同時に、巧妙な策士であることが伺い知れます。質問する人間が固定化されてきたので、もう一つ質問をぶつけてみました。

佐久間「オウム真理教の反省を表明したことによって、熱狂的な信者から命を狙われた経験はありましたか」

上祐氏「私自身が直接命の危険を感じた経験はありません。しかし、伝え聞いた話によると、私に毒を盛る計画は当時確かにあったみたいです」

信じる対象が異なることによって、命を狙われるというのは世界中で起きている宗教戦争と同じ構図で



す。これが国内でもあったわけですね。

一時は熱狂的なオウム信者であった上祐氏ですが、過去の自分の精神的な拠り所を否定するというところに大きな決断があったかと思えます。そんな上祐氏の話で特に印象的だったのは次のようなものでした。

『神格化』はその宗教自体の破滅を招く。だからと言って表面上の宗教は『形骸化』が起き、これまた宗教の破滅を招く。『神格化』と『形骸化』のバランスをとることが困難になっている。ある意味現代宗教の限界はここにある」

自分の精神の拠り所をどこに置くべきか。これを改めて考えさせられる時間でした。